

新たに着任した平泉町地域おこし協力隊員の横顔

みやひら しょうた
宮平 聖太さん =東京都出身=

昨夏に初めて訪れた平泉に、半年余りで隊員として移住する決意を固めました。「町外の人を受け入れてくれる土壌がある町と感じた。人の温かさがとても大きかった」と振り返ります。

平泉を知ったのは、デジタル人材の育成・定着を目指した町主催のプログラミング講座「スパルタキャンプ」の受講がきっかけ。音楽関係の仕事に携わった経験を生かし、昨年12月には町内で音楽イベント「BANG BANG FESTIVAL 2023」を開催して自らも出演するなど、「平泉を盛り上げたい」と奔走しました。

「賑わい創出」が隊員としてのミッション。子どもたちに音楽の文化を伝える活動のほか、集客に向けた催しを思い描きます。

中学時代のあだ名を冠したイベント会社を町内で設立。隊員のほか社長としても、平泉の活性化へ新たな風を吹き込みます。



まつくさ たつひと
松草 達人さん =東京都出身=

地方でのビジネスに興味を抱き、町が開催するプログラミング講座「スパルタキャンプ」を昨年7月に受講。「平泉に数カ月滞在して感じた課題の解決に力を尽くしたい」と語ります。

空き家の増加や有効活用などの課題に「所有者と活用希望者の声を聞き、活用のメリットなど、貸す側に立った活用例なども示しながら、モデルケースを作れば」と意欲をにじませます。

都内の企業で、海外での新規事業開発に携わった経験から「事業の立ち上げを目指す人を呼び込める環境を整えることで『起業できるまち』として、移住にも寄与できないか」と思案します。

趣味の海外旅行では東南アジアを中心に赴き、インドネシアは「国内20都市を回り、かなり詳しいと思う」と自負。酒を飲むのが好きで「ぜひ飲みに誘ってほしい」と心待ちにします。



かつかわ きよし
勝川 清史さん =愛知県出身=

これまで販売職や営業職、不動産関連事業の立ち上げなどを経験。地域おこし協力隊としては、空き家バンクや移住サイトの開設・運営、観光のPR業務などを山形・熊本など数カ所で行ってきました。そこで地域愛にあふれた皆さんが地域を案内する姿に各地で感銘を受け、ボランティアガイドを紹介するサイト「ふれあうツアーズ」を立ち上げ、200カ所ほどを掲載しています。

「持続可能な新たな平泉観光の構築に取り組む」という隊員としての任務には「今までの経験を生かして微力ながら精いっぱい取り組みたい」と意気込みます。

長島地区の風景には、田園を歩いて楽しむ「フットパス」事業に可能性を感じており、近隣自治体と連携を図りながら、これまでとは少し違ったツアーの組み立てにも興味を膨らませます。



平泉町地域おこし協力隊員として、活動への意気込みを示す(左から)勝川清史さん、河野綾華さん、山内彩さん、松草達人さん、宮平聖太さん、新井泰雄さん

地域おこし協力隊員として、新たに3人が着任

町の地域おこし協力隊員として本年度、新たに3人が加わり、昨年度から活動を継続する3人と合わせて6人となりました。

新たな隊員は、東京都出身の宮平聖太さん(34)と松草達人さん(40)、愛知県出身の勝川清史さん(70)。4月8日に委嘱状交付式を役場で行い、全隊員が青木町長から委嘱状を受け取りました。

宮平さんは「ひと」がつながるにぎわい創出プロジェクトとして、イベントの企画や運営などを行います。松草さんは「空き家活用・移住推進プロジェクト」として、空き家の利活用や移住の促進に向けて活動。勝川さんは「滞在型観光サービス開発プロジェクト」として、滞在型観光のブランド化を目指して取り組みます。

隊員2年目となる山内彩さん(28)は「デジタル化推進プロジェクト」、新井泰雄さん(65)は町の農産物を活用した6次産業化を進める活動に引き続き取り組みます。昨年度、商品開発プロジェクトを担った河野綾華さん(39)は、特産品開発・販売のほか、インバウンド(訪日客)拡大などに向けた「世界のH I R A I Z U M I」プロジェクトに新たに取り組みます。

Keyword

地域おこし協力隊

都市部から、少子化や過疎化などの課題を抱える地方に移り住み、地場産品の開発や販売・PRなどの支援、農林業への従事、住民支援などを行い、地域への定住を推進する取り組み。

総務省が制度化したもので、町は令和5年度に初めて3人を配置し、本年度は加えて3人に委嘱して計6人となった。

隊員は町の委嘱を受け、デジタル化推進や特産品開発、空き家活用・移住推進、滞在型観光の推進などに向けてそれぞれ活動する。